

東京都次世代自動車充電インフラ整備ビジョン

対象地域を10km×10kmを基本とする18の設置エリアに分け、ひとつのエリアにつき4～16カ所に充電インフラを整備する。島しょ部への設置数も含めると、総数として251カ所への設置を想定している。

EV・PHVの普及により CO₂を削減し安全で快適な 移動環境の実現を目指す



上：羽村市役所にある専用の急速充電器で充電中の「でんきバスはむらん」下：羽村の「はむ」と「走る（RUN）」を合わせた「はむらん」という愛称が公募で選ばれた



現状

Condition

急速充電器は目標達成

2012年3月末時点のEV・PHVの台数は2381台（EV1974台・PHV407台）で、現状での総数は3000台程度と推測される。急速充電器は2009年から3カ年で合計80基の設置を目指したが、2013年2月時点で117基を設置。既に目標数を達成した。



目標

Target

5年間で1万5000台

2008年3月の東京都環境基本計画で掲げたCO₂排出削減計画に基づいて、短期目標として5年間で新車販売台数の2%、1万5000台のEV・PHVの普及を目指し、約2.3万トンのCO₂を削減する。急速充電インフラは都内で80基の設置を目標とする。



スカイツリーの真下を走るEVバス「すみりんちゃん」。デザインは墨田区在住のデザイナーが担当したという

EVバスやEVタクシーの実用化に向けて 官民による実証試験にも積極的に取り組む



京都羽村市が2012年3月10日に全国で初めて定期運行を開始した「でんきバスはむらん」は、同市内にも工場を持つ日野自動車が開発したEVバス。市内を循環するコミュニティバス路線のうち、羽村駅～市役所～小作駅を結ぶ往復7.4kmの羽村中央コースで実用運行されている。車体には電気自動車であることがわかるようにコンセントをデザインしたロゴをあしらひ、電気バスが停車するバス停にも同じロゴが表示されている。

「ルートを一周すると約30分で、1回の充電が20～30分。市内にある福生病院までルー

トを延伸して欲しいという声も多い」（羽村市役所市民生活部）とのことで、往復14kmのルートに延ばすことも検討しているという。

羽村市とほぼ同時期の2012年3月20日に、「すみだ環境区宣言」の趣旨に基づいた環境配慮の一環として、墨田区が導入したEVバスが「すみりんちゃん」。羽村市と同じ日野自動車製の電気バスを使用し、運行は京成バスが担当。東京スカイツリーを中心に設けられた3ルートのうち北西部ルートで、1日52本の運行本数のうち7本ほどがEVバスの運行となっている。

東京都では2011年から2012年にかけての5カ月間、18台のEVタクシーを使って丸の内周辺で実用性実証試験走行も実施。アンケートによると、今後もEVタクシーを利用したいという回答が約7割に及んだ。一方、乗務員へのアンケートでは、走行距離の不安を払拭すると同時に、充電設備の拡充と24時間営業化を求める声も多かったという。

今後の展望

事業者向け補助金を継続
国の補助金に加えて中小企業や個人事業者向けに都独自のEV・PHV購入補助金制度を導入しており、社用車等のEV・PHV化を後押しする。羽村市と墨田区で行っているEVバスの実証試験を継続して、公共交通でのEV導入の取り組みも推進する。

利用者の視点

多彩な実証試験を実施
EVバス「すみりんちゃん」は、4カ国語で観光案内する液晶モニターを設置するなど利用者目線での気配りも利かせている。地元住民だけでなく観光客からも「環境に優しく静かな乗り心地」で気持ちがいよと大変好評。



高齢者の利用も多いが、静かさと乗り心地に対する好意的な声が多かった